

(掲載順、三点以内)

○佐藤卓己(京都大学大学院教育学研究科教授・京都大学理事補)

- ・第一章「国民参加のファシスト的公共性―戦時デモクラシーのメディア史」、福岡良明編『シリーズ戦争と社会4 言説の表象と磁場』(岩波書店、二〇二二年)
- ・第四章「ネガティブ・リテラシーの時代へ」、村上陽一郎編『専門家』とは誰か』(晶文社、二〇二二年)
- ・第一章「三国同盟・ヒトラーと日本世論」、筒井清忠編『昭和史研究の最前線―大衆・軍部・マスコミ、戦争への道』(朝日新書、二〇二二年)

○木下浩一(帝京大学文学部講師)

- ・【論文】「ニュースルームの社会史…戦後日本の政治記者を事例に」『帝京社会学』二六号、二〇二三年三月、

- ・【書評】「長崎励朗著『偏愛的ポピュラー音楽の知識社会学―愉しい音楽の語り方』(創元社、二〇二二年)を読む」『京都メディア史研究年報』八号、二〇二二年四月、三二七―三三八頁

・【口頭発表】日本メディア学会二〇二二年度春季研究発表会「日本のニュースルーム社会史の試み…新聞社の写真記者を事例に」(二〇二二年六月五日、日本女子大学)

○彭永成(桃山学院大学社会学部講師)

- ・【論文】『結婚情報誌『ゼクシイ』のメディア史的研究「花嫁優位」イメージを演出するプラットフォーム』京都大学大学院教育学研究科博士論文

- ・【報告】「ブライダル広告メディアの比較研究―『ゼクシイ net』と雑誌『ゼクシイ』を例に―」『吉田秀雄記念財団令和三年度助成研究報告書』、一―三、二〇二二

頁。

○石田あゆう（桃山学院大学社会学部教授）

・【論文】「室伏高信『ラヂオ文明の原理』—テレビ文化への射程—」『メディア史研究』第五一号、二〇二二年一月

・【研究ノート】「神近市子にみる青鞥・恋愛・自己形成——ジャーナリスト型女性政治家の「受難」人生」

『京都メディア史年報』第八号、二〇二二年四月

○山口仁（日本大学法学部准教授）

・【著書】（分担執筆）『現代日本社会における『政治のメディア化』と『ジャーナリズム化』』山腰修三編『対立と分断の中のメディア政治』慶應義塾大学出版会、七三二—〇八頁。

・【論文】「カレンダー・ジャーナリズム批判に関する諸問題」『ジャーナリズム&メディア』第一九号、七二—二二頁。

・【ワークショップ登壇】（問題提起者）「ジャーナリスト調査研究が、今しなければならぬこと」日本メディア学大会二〇二二年春季大会。

○松永智子（東京経済大学コミュニケーション学部准教授）

・【研究ノート】「メディア議員」米原昶（一九〇九—一九八二年）『京都メディア史研究年報』第八号、二〇二二年、一九三—二〇七頁。

・【寄稿】「分断を超えゆくプラットフォームへ／Transcending division among peoples of the world」ジャパントイムズ編『TIMES CAPSULE 1897-2022: ジャパントイムズ 125年史』二〇二二年、五二—五五頁。

・【寄稿】「カーラジオのニホンゴ：島の暮らしと「移民」のメディア（二）」人間学研究会『道標』第七九号、二〇二二年、六二—六七頁。

○花田史彦（大阪商業大学・大手前大学・岡山大学・

同志社大学・立命館大学非常勤講師)

- ・「さらばいくつもの「方法としてのアジア」を求めて——レオ・チン『反日—東アジアにおける感情の政治』』
- 『京都メディア史研究年報』第八号、二〇二二年
- ・戦後の木下惠介と戦争—筒井清忠編『昭和史講義【戦後文化篇】(下)』筑摩書房、二〇二二年
- ・日本メディア論の胎動—今村太平『映画芸術の形式』をめぐるつて『メディア史研究』第五二号、二〇二二年

○飯塚浩一 (東海大学文化社会学部教授)

- ・「特集企画「メディア化する君主制」について」『メディア史研究』第五三号 (二〇二三年)

○福岡良明 (立命館大学産業社会学部教授)

- ・【著書】(単著)『司馬遼太郎の時代 歴史と大衆教養主義』中公新書、二〇二二年一〇月、全一九六頁
- ・【論文】(単著)「歴史小説のなかの『戦争と社会』——司馬遼太郎とネガとしての『明るさ』『思想』二〇

二三年五月号、七四九〇頁

- ・【論文】(単著)「昭和の日本主義」山口輝臣・福家崇洋編『思想史講義「戦前昭和篇」ちくま新書、二〇二二年一二月、一六五—一七九頁

○趙相宇 (立命館大学産業社会学部・国際調査教育センター特任助教)

- ・【著書】(単著)『忘却された日韓関係 (併合と分断)の記念日報道』創元社、二〇二三年四月、全二六四頁。

・【論文】(単著)「始政記念日「体育デー」のメデア・イベント 朝鮮人の「併合」への参加と動員」『東アジア近代史』二〇二二年六月二六号、七三—二二頁。

- ・【対談】(福岡良明・趙相宇)「韓国併合記念日に語る、日韓関係の記憶と忘却」創元社オンラインセミナー主催、二〇二三年八月二十九日、オンライン。

○比護遙 (日本学術振興会特別研究員PD)

・【研究ノート】「中華民国期の出版データの推計」『京都メディア史研究年報』第八号（二〇二二年）

・【書評】「空間政治学の名著として―G・L・モッセ『大衆の国民化―ナチズムに至る政治シンボルと大衆文化』」『京都メディア史研究年報』第八号（二〇二二年）

・【口頭発表】「書籍と中国社会―焚書と読書のシンボリズム」中国社会文化学会（二〇二二年七月、オンライン）

○温秋穎（京都大学大学院教育学研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員）

・【論文】「日本放送協会「支那語講座」のメディア史（1931-1941）：他者の言語はいかに想像されたか」『メディア研究』第二〇一号、二〇二二年、一一九―一二三六頁。

・【論文】「NHKラジオ・テレビ「中国語講座」の戦後史―日中国交正常化前の語学学習と中国認識」『メデ

ィア研究』第五三号、二〇二三年、一二五―一五〇頁。

・【口頭発表】「戦前日本の中国語学習誌・中国語教育、中国語界を読み解く基礎資料として」京都大学人文科学研究所付属現代中国センター「20世紀中国史の資料的復元」共同研究班、二〇二二年五月二〇日。

○戸松幸一（京都大学大学院教育学研究科博士後期課程、株式会社もくようしゃ代表）

・【論文】「新聞『日本』に見る古島一雄の東洋観―時事短評欄「雲間寸観」を中心に―」『京都大学教育学研究科紀要』六九号（二〇二二）

・【口頭発表】「新聞『日本』の時事コラム―古島一雄の「雲間寸観」―」（日本メディア学会秋季大会、二〇二二年一月一九日、沖縄国際大学、オンライン発表）

・【書評】「最初で最後の「国民歴史作家」―その栄光と哀愁―福岡良明『司馬遼太郎の時代 歴史と大衆教養主義』―」（『京都メディア史研究年報』第九号）

○山内湧貴（京都大学大学院教育学研究科修士課程）

・【書評】「置き去られた書物とその広がり」にみる思想
戦 ―和田敦彦『大東亜』の読書編成 思想戦と日本
語書物の流通―」（『京都メディア史研究年報』第九
号）